

令和 8 年度神奈川県献血推進協議会議事録

開催日時：令和 8 年 7 月 28 日（火）午後 1 時 30 分～3 時

開催場所：日本赤十字社神奈川県支部 6 階会議室

出席委員：埋橋委員（副会長）、安藤委員、大久保委員、川口委員、近藤委員、佐藤委員、
関口委員、竹田委員、廣幡委員、藤澤委員、松崎委員、八鍬委員、山神委員

傍聴者：なし

〔事務局〕

ただいまから令和 8 年度神奈川県献血推進協議会を開会いたします。

本日、会長の黒岩知事が所用により欠席でございますので、副会長の埋橋健康医療局長よりご挨拶をさせていただきます。

あいさつ

〔埋橋副会長〕

皆様改めまして、神奈川県健康医療局長をしております、埋橋と申します。本日は会長の黒岩知事が欠席ですので、私の方が代わってご挨拶をさせていただきます。

こちらの協議会、これまでは書面開催が多いと所管の方から聞いていますが、今回は来年度、献血運動推進全国大会が何十年ぶりに神奈川県内で開催されるということもございまして、改めて皆様と対面でお話をさせていただければということで、こういった機会を設けさせていただきました。

本日大変お暑い中、お忙しい中お越しいただき、改めましてありがとうございます。献血、血液につきましては、もうすでにご承知の方が多いかと思いますが、これだけ医学が進歩した中でも人工的に作ることができない、また長期の保存が難しいということで、必要な血液を集めるためには、献血は不可欠となっています。

そして、おそらく皆様の献血に対するイメージですと、事故とかの大量出血に対しての輸血かと思いますが、現在ほとんどは薬を作ったりがんの治療等に役立てたりとのこと。

また、血液を必要とされる方は高齢者の方が多く、今後ますます若年層の人口が減っていく中でどうやって必要な血液を確保していくか、喫緊の大きな課題であると思っております。

また、災害なども今後起こる可能性があります。そうした時には、大量の血液が必要になるような事態もあらうかと思いますが、そのために一番大事なのは、献血のハードルを下げて、一度でも経験をしていただくこと、意外と簡単にできるものなんだという経験をしていただくことが最も大事なかなと思っております。

今日はそうした意味で、今後神奈川県内での献血を進めていくために、こういった方策が考えられるか、委員の皆様方のご知恵をいただき、ぜひ忌憚のないご意見を承れればと思い

ます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

〔事務局〕

薬務課長の川口と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

続きまして、委員の皆様につきましては、手元に委員名簿と座席表の方をお配りしております。せっかくの機会ですので、安藤様の方から順に、一言自己紹介をしていただければと思います。

〔安藤委員〕

公募委員で参加をさせていただきます、安藤慶と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

私、献血を度々やっております、その際献血ルームで、公募委員の募集を見かけて、私に何かできないかというところで、応募しましたところ今回ご選任をいただきました。

神奈川県の高塚市で自営業を営んでおりますけれども、私も経験を通して何かできることがあれば精一杯取り組みますので、どうぞよろしくお願いいたします。

〔大久保委員〕

神奈川県赤十字血液センター所長の大久保でございます。今、副会長からお話がありましたように、神奈川県内は血液の需要量が毎年増加の一途です。全国的に見ますと、ほとんど横ばいか、あるいは少し減少傾向ではありますが、神奈川におきましては、増加しております。

血液センターとしまして、それに見合った採血をすることに大変苦慮しているところではございますが、皆様のお知恵をお借りして今後も献血を推進していきたいと思っております。おかげさまで、昨年度は過去最高の人数の方から献血をしていただきました。

今年は昨年度よりも一人でも多くの方から献血をしていただこうということを、職員一同、頑張っていきたいと思っております。いろいろなお助言をいただけますと大変ありがたいので、どうぞよろしくお願いいたします。

〔川口委員〕

神奈川県医師会の川口と申します。普段は横浜市瀬谷区で内科の診療所をやっております。神奈川県医師会では、主に予防接種、感染症、がん対策、そして災害医療を担当しております。よろしくお願いいたします。

〔近藤委員〕

テレビ神奈川の近藤でございます。微力ながらお話させていただければと思います。

〔佐藤委員〕

神奈川県市長会から参りました、座間市長の佐藤弥斗と申します。よろしくお願いいたします。

座間市では市役所で献血もしていますが、ロータリークラブさんが最近大型の商業施設で行っているのが非常に好評でして、若い方たちに献血をしていただいています。若い方たちが献血しやすい環境を整えられればなと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

〔関口委員〕

私、神奈川県経営者協会というところから参りました。あまり聞いたことがない名前かもしれませんが、全国にあり、経団連の地方組織という位置づけになります。そういった意味で、私も県や国のいろんな会に参加させていただいております。

民間企業から代表される立場になるのかと思います。キャリア的には、普通のサラリーマンを 40 年間やってきておりますので、普通のサラリーマンなり、企業人としての感覚で何かお役に立てたらと思います。よろしくお願いいたします。

〔竹田委員〕

連合神奈川で副会長を仰せつかっております、竹田と申します。情報労連組合役員でもあり、少しでも組合として役に立てればと思いますので、よろしくお願いいたします。

〔廣幡委員〕

県立学校長会議の代表として参加させていただいております、旭高等学校校長の廣幡と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

高校生で何かできることがあれば、ご協力させていただければと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

〔藤澤委員〕

NPO 法人のアドバイザーネットワーク神奈川の代表理事をしております、藤澤と申します。 よろしく申し上げます。

委員を長く務めさせてさせていただいており、最近大学でボランティア論の一コマで少し献血について紹介していますが、20 歳すぎの大学生でも献血について知らなかったという声が非常に多いです。そして、意義があることならぜひ協力したいという声もあります。

ついこの間、多分「はたちの献血」だと思いますが、自分のしたことがそのような意義があることだと知らなかった、自分の血液の使われ方を知ることができて本当に良かった、ぜひ今後協力する機会があればしていきたいという声をよく聞いております。ということで、少しご紹介させていただきました。

〔松崎議員〕

横浜市金沢区から選出をいただいております、6期目の県議会議員の松崎淳です。

当局と議会は車の両輪というふうに、二元代表制のもとでそれぞれの役割を果たすことになっております。そういう意味で、県民の代表として、また県民の皆様から見て、献血や全国大会に向けての説明等、納得が十分図られるように、そういうことに配慮しながら参加をさせていただいております。どうぞよろしくお願いいたします。

〔八鍬委員〕

神奈川県薬剤師会から参りました八鍬と申します。普段は川崎市中原区で薬局で勤務しております。県の公衆衛生学薬委員会で、献血活動を年2回日赤さんと一緒にしています。

個人的には学生の頃献血が好きで、週2回成分献血に行っていました。今献血ルームが近くになく、かなりペースは落ちていますが、年に1回ぐらいは献血に行っております。よろしくお願いします。

〔山神委員〕

神奈川県開成町の町長を仰せつかっております、山神と申します。よろしくお願いいたします。ます。町村会、13の町と一つの村を代表して参加しています。

開成町のことを少し紹介させていただきますと、県西部で小田原市の北にございます。東日本で一番小さな町です。一方で、人口もまだ伸びておりまして、6月のあじさい祭りには毎年20万人お越しいただけるような、そんな町でございます。

献血については、個人的には二俣川で免許更新時というお恥ずかしい状況ですが、町としては、役場の駐車場や県政総合センターにて、バスで献血できる場所を設けております。どうぞよろしくお願いいたします。

〔事務局〕

委員の皆さん、ありがとうございました。では、事務局の方から一言、お話をさせていただきます。

〔事務局長〕

事務局長を務めております、生活衛生部長の大島でございます。改めまして本当にお忙しい中、お暑い中、お集まりいただきましてありがとうございました。本日の議題ですけれども、先ほど副会長からもありましたとおり、来年度本県で行われる全国大会の概要についての報告と、今年度の献血の取組への進め方ということで、本日いろいろ皆様にご報告、あるいはご意見等をいただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

〔事務局〕

ありがとうございました。

名簿に記載のあります、石川様、太田様、鳥越様は所用により欠席のご連絡をいただいております。また、ライオンズクラブ国際協会 330-B 地区の辻井様は事務局よりご逝去の連絡をいただきました。ご逝去を悼み、謹んでお悔やみを申し上げます。

それでは早速議事に移らせていただきます。議長につきましては、要綱に基づきまして、埋橋副会長にお願いいたします。よろしくお願いいたします。

議事

〔埋橋副会長〕

本協議会につきましては、原則公開とさせていただきます。本日は神奈川県情報公開条例第五条において非公開にあたる案件は予定しておりませんので、すべての協議事項について公開とさせていただきます。

本日、傍聴を希望される方はいないようですので、このまま議事を進めさせていただきます。

まず、最初に委員の皆様へのご相談ですが、本日の協議会の記録の作成にあたりましては、発言内容を要約した形式での議事録とさせていただきます。よろしいでしょうか。

※全委員異議なし

それではまず「第 63 回献血運動推進全国大会の開催について」報告をさせていただきます。事務局から説明をお願いいたします。

〔事務局〕

※資料 1 に基づき説明

〔埋橋副会長〕

献血運動推進全国大会は今事務局から説明させていただいた通り、実行委員会形式での開催となりますので、本日の協議会につきましては、ご報告という形になっております。

最後に案内もありましたが、来年の 7 月の時期に協議会の委員の方については、別途ご案内をさせていただく形になるかと思えます。7 月に、48 年ぶりに神奈川にて大会を開催することについてはすでに記者発表をさせていただいていますが、日程が決まるのはいつ頃でしょうか。

〔事務局〕

早くて年内に決まるかどうか、という状況です。

〔埋橋副会長〕

また、途中でご案内させていただきました、標語・ポスターデザインの募集もすでに7月1日から始まっておりますので、もし皆様の周りで広報等ぜひご協力いただけるような機会がありましたら、よろしくお願いします。

もう応募はあるのでしょうか。

〔事務局〕

ポスターデザインはまだですが、標語の方は申請システム上でご応募いただけるので、既に40ぐらい来ております。

〔埋橋副会長〕

基本的に応募いただく対象の方は県内の中学校以上の生徒・学生さんで、30歳未満の方までは応募が可能です。

大会の件につきまして今後もし決まりましたら、協議会の方にも適宜ご報告を入れさせていただければと思っております。

本件につきましては、何かご質問やご意見などコメントでも結構ですので、ぜひ何かありましたらお願いいたします。いかがでしょうか。

では、続きまして令和8年度の献血推進に係る取組の進め方につきまして、事務局よりご説明をさせていただきます。

〔事務局〕

※資料2に基づき説明

〔埋橋副会長〕

こちらの推進計画については昨年度書面の方でご同意いただいた内容かと思います。スライド4課題2についてのご指摘を、昨年度委員の方からいただきました。いろんな取組をやっておりますが、それが実際の献血にどれだけ結びついているのか、なかなか評価するのは難しいですが当然のご指摘と思っております。

最初ご覧いただいたとおり、神奈川県は少しずつ献血量が増えているということもあり、絶対量が足りないということではないと思います。しかし、どの取組が若い人に刺さったのか、実際の献血に繋がったのか、そして献血をしたことがない、したくない方は何がネックになっているのか、そうした分析をすることが大切なこと、重要なご指摘いただいたと思っています。

一方で、事務局側としては今年度は来年の大会の準備に注力するため、評価については大会終了後にじっくり考えていきたいと認識しております。

このあと皆様方に一言ずつコメントいただきたいと思います。

血液は人工的に作ることができない、かつ長く保存することもできないということで、日赤さんのホームページで、「足りません」という表示が出ていますね。素人的な質問で恐縮ですが、やはり献血が足りない状況なののでしょうか。大久保委員いかがでしょうか。

〔大久保委員〕

私どもは実行計画という採血数を与えられております。算出については、昨年度あるいは2,3年間の必要量、そして病院への供給量を関東甲信越ブロックの各センターから全部積み上げ、関東甲信越ブロックでどれだけの供給がされたかというのをブロックで出します。それに対して、その県の人口や今までの採血の実績をもとに、関東甲信越ブロック全体の必要な供給量に対して、どのくらい神奈川県が採血しなければならないか、按分率が当てはめられます。毎月、関東甲信越ブロックから今月は何人の方から採血するよう目標を定められます。目標値を目指し、私たちは各献血バス等の計画数を出します。それに比べてどれほど実際に採血できたかを毎日確認します。残念ながら、7月は目標に対して採血数が足りないという状況が続いております。それをもって「足りない」という言い方をしています。

病院に必要な血液をお渡しできていないのではないかと心配される方がいらっしゃると思いますが、関東甲信越ブロックの中で融通をしまして、必要な量は病院にはお渡ししていますので、そういう意味では足りないわけではありません。

計画に対して足りないということで、足りないというアピールをしているというのが正直なところです。

〔埋橋副会長〕

ありがとうございます。

今年度の事業計画について、広報や献血について、せっかくの対面の機会ですので安藤委員からまた皆様一言ずつお願いできればと思います。

〔安藤委員〕

先ほどからお話のありました課題2について、取組についての効果測定はとても重要なことだと思います。献血については、若い人たちの協力が重要だと思っていて、どのように若年層に興味を持ってもらうか、僕も常日頃考えています。僕が地域で高校生・中学生と一緒に活動している中で感じたのは、自分の血液で人の命を救いたいと考えている人は、おそらくほんの一握りなのかなと肌感覚ですが、思っています。ですが、何か貢献したい、それを今後の人生に活かしたいという思いを持っている若者はたくさんいると思いますので、まず入り口を作ることが非常に重要だと思います。

僕自身は最初、献血はお菓子やジュースがもらえるからと安易な気持ちで始めましたが、やり続けることで自分の血液が人のためになっていると感じるようになりましたので、

そういった思いを持つ若者を増やしていくことが重要だと思っております。

課題 2 に戻りますが、効果測定は効率よく、数字ではっきりと出すことが重要だと思います。例えば、若者が献血をした時に、受付で献血のきっかけについてアンケートを取ることなどです。既にそういった議論や取組が検討されているかもしれませんが、思ったことをお話させていただきました。

〔大久保委員〕

血液センターとしては、小さい試みかもしれませんが、いろいろな取組やキャンペーンなどをしております。それに関して効果測定はしておりますが、ひとつひとつの小さい試みに対してどの程度の効果があったかということだけですので、全体的な評価に関してはなかなかできておりません。

神奈川県内では、年に 1 回しか献血をしていただけてない方が多いです。実際 1 年間で、延べ 34 万人以上の方に献血していただけていますが、8 万人くらいの方が年に 1 回しか献血をしていただけてない状況です。8 万人の半分でも来ていただいたら、ものすごい人数になります。そこで、1 回を 2 回へというキャンペーンを 2 年前から行いまして、それは大変効果がありました。実際に 1 年間に 1 回しか来ていなかった方に対して、看護師さんから「ぜひ今年度中にもう 1 回献血を」とお願いをします。やはり看護師が一番献血者と接している時間が長い、そして血液に関して最も仕事上関わってきた方々なので、血液の行方や患者さんの話をしたのちに、ぜひまた来てくださいとマグネットを配ります。男性は 3 ヶ月後、女性は 4 ヶ月後に再度献血していただけるので、献血可能な日程を書いてお渡ししてまた来ていただくという、取組を行いました。マグネットだけなので、かかった予算は 1 件あたり 10 円ちょっとでした。

ですが、献血経験のある方に対する取組です。本来は裾野を広げ、初回の方や若年層に向けて啓発をしなければなりません、それが難しく、皆さんのお知恵を拝借したいなと思っています。今申し上げましたように血液が足りなくなると大変ですので、献血にご理解のある方に対し、もう 1 回来ていただいたという取組について、ご報告をさせていただきました。

献血事業では、今まで 400ml 献血を推奨してきました。というのも、800ml 輸血が必要な方がいれば、お 2 人からいただいた方が患者さんへの負担が少ないためです。しかし、若年者の方を増やすためには 200ml 献血を重要視していこうと、昨年度あたりから本部の考えが方向転換しました。ぜひ神奈川県でも、特に県立高校で、少しでも献血に目を向けていただけると大変ありがたいです。

〔川口委員〕

今いろいろお話を聞いていく中で、医療者として、医療現場使う血液の適正使用も考えていくべきだと思いました。また、予定している手術に関しては、自己血輸血というのも進め

ていくべきだと思いました。

先ほどご説明いただいた中で年齢別の献血者が出ていましたけれども、献血される場所はどこが多いのでしょうか。また、次ページでキッズ献血とありますが、こういったものなのかお聞かせ願えますか。

〔大久保委員〕

400ml、200ml の全血献血は、献血ルームが 55%、献血バスが 45% ぐらいです。ただ、成分献血はすべて献血ルームでしかできませんので、そういう意味では、献血ルームの方が断然多いです。全血献血に関しては、献血ルームの方が多いですが、献血バスもたくさんありますので、ぜひご協力をお願いしたいと思います。

〔事務局〕

キッズ献血については、今年 8 月にトレッサ横浜で実施をされる予定ですが、お子さんが実際に針は刺さずに、献血の流れを体験する。また、予約制で親御さんが献血しているのを見ることができるイベントです。ほかにも、献血マスコットのゆるキャラ、けんけつちゃんとの写真撮影もできます。

〔近藤委員〕

献血バスについては、何台あってどのように回っているのでしょうか。

〔大久保委員〕

新横浜に神奈川センター、厚木に湘南事業所があります。バス自体は 11 台ありますが、毎日出ているわけではなく、大体多くて各事業所から 4 台くらいです。今日は神奈川センターから 3 台、湘南事業所から 2 台稼働しています。

〔近藤委員〕

昨年度の献血推進協議会でも意見として記載しましたが、SNS 等広報をいろいろ取り組んでいると思います。皆さん若年層に対してと仰っていましたが、グラフを見ると 40 代が下降気味なのが気になります。全体的に上昇傾向なのは素晴らしいと思いますが、年代の中で 50～60 代がかなり割合を占めているので、対策が必要だと思います。課題に対してどのように取り組んでいくのか考えていくのが重要だと思います。

ちなみに、採血量が最も多いのはどこですか。

〔大久保委員〕

東京都です。次に大阪、次いで神奈川です。

〔佐藤委員〕

私の方からは、来年度の全国大会に向けての活動についてお話しします。

大会のハッシュタグなどを決めて、それぞれの団体で持っているホームページやSNSなどで発信するのが良いと思います。例えばキャッチフレーズを決めたり、踊ったりと、ポップな感じでやれるとよいのかなと思いました。神奈川県で久しぶりに開催する、ということがPRできたら良いのかなと思っています。

全国大会をきっかけに、若い方たちに改めて献血の大切さを知ってもらえる機会にできればいいと思います。献血していただいた方、特に若い方が喜ぶようなキャラクターとコラボができれば、関心をもってもらえると思います。

また、大型の商業施設は比較的若い方が多く、献血に協力していただける方が多いのかなと思うので、施設と協力して献血者を増やしていく方法もあると思いました。

〔関口委員〕

課題解決に対しては、現状分析が一番大事だと思っています。本日、大久保委員の発言も含めた皆さんの現場の声を生で聞き、現場の情報がたくさんあるような気がしました。現状把握した後は、その問題がなぜ起こっているか、問題の原因を見極める。「なぜ」を5回繰り返す。5回繰り返すと、本質的なものが見えてくる。本質的なところから改善を施さないと、効果的な改善にはつながりません。私もこんなことを教わり、実行してきました。

その中でありがちなことは、対策の成果を出そうとするあまり、元の本質的な目標が見えていないことです。それが今の状態に近いと思います。課題解決における一般的な手法を少し取り入れながら、取り組むのもよいのではないかと思います。

人口比で、献血量が一番多い県はどこですか。

〔大久保委員〕

本部で県民率という、県の人口に対して献血している人の割合を出しています。県民率の1番は栃木県で8.1%、神奈川は6%ぐらいです。一方で、県内在住者でも東京で献血する方等も含まれますので、100%信用できるものではないのですが、県民率が最も高いのは栃木、次いで北海道です。

〔関口委員〕

一番簡単にできる方法は、自分より成績のよいところを真似する、いわゆるベンチマーキングです。栃木県などでどんな取組をしたのか、どんな取組が効果があったのかを聞いて、真似していくのがよいと思いました。

また、全国大会についても何のためにやるのか考えるべきだと思います。全国大会の開催は、県民に対し献血の重要性を広く知らしめることにつながります。来年こそ本県の献血率を上げられるチャンスと捉えて、取り組んでほしいです。

〔竹田委員〕

標語ポスターデザインの募集については、連合を通じて情報共有が可能かと思います。

感想になりますが、来年花博があるので、花博とどんな連携するのかは関心があります。

また、コロナ前は赤十字さんと連携して職場での献血がありましたが、今後、職場として献血をどうやって進めていくのか考えるきっかけになりました。

〔廣幡委員〕

高校を代表してお話をさせていただきます。

献血の年齢が16歳からなので、高校生が入り口かなと思いました。高校で保健の授業で献血を取り扱いますが、授業だと1年生で1単位、2年生で1単位、つまり週に1回の授業で、多い時でも月4回ぐらいしか授業がありません。献血の月間である7月は期末テストがあります。テスト、テスト返却、成績処理などで、ほとんど授業がありません。

例えば手話月間である5月には、朝の打ち合わせやホームルームで生徒に手話を普及しています。献血も、月間である7月に、そういった形で調整ができないかと思いました。

私も30年ほど現場にいますが、学校で献血についての広報はあまり無かったのではないかと思います。今回会議に参加させていただいて、より広く広報をしなければならないと感じました。学校長会議等でも、広報をしていきたいと思いました。

〔藤澤委員〕

日本人で、献血を知らない人はいないと思います。特に、私の親の世代は献血を重ねると、自分の家族に輸血が必要な時に優先的に輸血を受けられる仕組みがありました。昔はかなりの人が、それを目的に献血をしていたかと思います。その仕組みが今はないことがだめだということではありませんが、もう一步、献血の必要性を知らせることが重要だと思います。血液は人工的に作ることができない、長期保存もできないこと、売買もできないからこそ、献血が必要だと伝えるべきだと思います。

また、「男性だと年に3回、つまり4か月空けないと次の献血ができない」、「いくら気持ちがあっても一人が年間で提供できる血液の量は限られている」という話をしたら、それを聞いて、もっと大勢が協力しないと全然足りないんじゃないかと気づいたという学生が多かったです。このように、多くの人の協力が必要な理由について具体的にイメージできると、「自分も協力してみようかな」という気持ちをもう一步推し進め、行動につなげていくことができるのではないかと思います。

こうしたお話は、できれば、高校生くらいの段階で伝えられたらよいのではないかと感じます。

〔松崎委員〕

他の委員から、GRREN×EXPO について言及がありましたが、私も話そうと思っていました。

GRREN×EXPO は 3 月 19 日から瀬谷区で開催されます。そこで、ブースや献血バスを配置できれば、関心のある方は足を向けてくださるかもしれません。

また、インターハイが関東で開催されます。本県も、いくつかの競技が実施をされ、長い期間ではありませんが、大勢の若い人が全国から集まります。神奈川に限らず、多くの人に献血を呼びかけるやり方もあると思います。

あからさまに高校生を狙うと、高校生に対して「あなたの血液をください」と言っているようで少し問題がありますが、インターハイの趣旨と献血の趣旨は、矛盾しないと思います。もし賛同が得られたら、競技会場や宿泊する旅館やホテルなどに協力を呼び掛けるのは実現可能だと思います。

そして、神奈川県教育委員会や文化スポーツ観光局なども巻き込んで、インターハイの競技会場に来る方々、支援されている皆さんに対して献血の意味合いを考える機会を作ることができると思います。時間的な制限はあるかもしれませんが、検討の余地はあると思います。

〔八鍬委員〕

私は薬剤師の立場として、いろいろ考えました。各学校には、学校薬剤師が必ずいます。学校薬剤師は学校において薬物乱用防止教育等に携わっていますが、小学校に比べ、中学・高校に行くにつれて実施率が低下しています。高校でも薬物乱用防止教室を行っていますが、現状では学校の意向や生徒の宗教的な関係で献血の話をするのは難しいと考えています。さきほど廣幡委員からお話ありましたように、校長会の方で、薬剤師が献血について説明できるよう話を進めていただければと思います。

もう一点、薬剤師会の方で献血をした際に学生さんが手伝いと献血することになりましたが、華奢な女の子で 200ml 献血しかできませんでした。先ほど 200ml 献血も重要視していこうという旨のお話がありましたが、現場として特段の支障はないのでしょうか。

〔大久保委員〕

できるのであれば 400ml 献血していただけることが望ましいですが、年齢的な制限もありますし、これからは 200ml 献血も推進していこうと思っています。

〔山神委員〕

町村会・開成町長の山神です。概ね皆さんがおっしゃったことに賛同します。

一度献血経験のある人に対して二度目のアプローチをする方が、献血未経験者に対する推進より端的に効果があるというお話や、200ml 献血で中長期的に協力者を育むことにつ

いて、データがそのように示して分析をしたのであれば、それを推進するのがよいと思います。若者に絞った場合には、佐藤委員がおっしゃったように、SNSが効果的だと思います。町主催イベントのSNSの関連性の分析結果が必ずしも献血に対して当てはまるわけではないと思いますが、効果の大きさ、特に当たった場合を実感しますと、引き続きSNSによるチャレンジは十分価値があると思います。

献血の裾野を広げていかなければならない課題に対してです。40歳以上が70%という話でしたが、年齢ごとの人口ピラミッドの50代、60代は2040年ぐらいまでは大きく減らないと思います。見方を変えれば、時間的な猶予を与えられているようにも感じます。若者に対していろいろチャレンジできる時間的猶予が、10年ぐらいはあると思います。

また、日本人は人口が減少していますが外国人は増加傾向にあります。宗教的な問題もあるかと思いますが、可能であれば外国人に対するアプローチも検討すべきかと思います。

〔埋橋副会長〕

ありがとうございました。

それぞれのお立場から大変示唆に富んだご意見、ご提案をいろいろいただきました。今後の取組にぜひ参考にさせていただきます。

それでは以上をもちまして、本日の議事につきましては終了させていただきます。全国大会の準備状況などにつきましても、皆様からいただいたご意見を参考に、より一層充実させていきたいと思っております。

また、委員の皆様には、今後とも研究推進の取組に一層のご協力をいただければと思います。

本日はお忙しい中、ありがとうございました。今後とも引き続きどうぞよろしくお願いいたします。